

## 第五回芝不器男俳句新人賞

西村我尼吾奨励賞受賞百句

佐々木貴子

夕時雨重たき星の草を食む  
白き湖落葉とろりと浮いており  
枯草や彗星のくる門の前  
枯木星赤き川よりのぼりくる  
白鳥のかすれる空のうすべによ  
雪うすき地に月面の香あり  
うすべにの雪わななと鈍の空  
雪ふるや寂しき星のまんなかに  
白鳥の海の白紙の大いなる  
海光のあちこち爆ぜて落下の兎  
産声のかたち春の海しなる  
陽にすこし涙を足して春茜

ぜんまいや陽にはかなさの指の痕  
古草の光を抱きうごかざる  
暗い目の奥に花咲く星まわす  
連翹や未明の星に雨のふる  
糸一本もつれていたり囁れり  
てのひらに陽の垂直やきんぼうげ  
ふつふつと星うかびこよ大夏野  
弓なりの山鈴なりの青時雨  
夏の草砥ぐ太陽の哀しみを  
少年の膝ののこりし青岬  
耳なしの山の夕立においたつ  
夕焼をとおる童子の白髪よ

蛸や琥珀にうつす杜の影  
ちちふさや海やわらかき星月夜  
月煌々人家に穀のどよめくを  
白樺は仆れて小人らが焔  
黄身ひとつ滑り落ちたる夕花野  
うつうつろなる芒よまひるの陽  
白木蓮ほのほのうれて鳥の空  
鳥ほろぶ無風の古里の星まわし  
口中に鳥の臚を飼うや 寡  
灰白の異境をすべる一本足  
鳥窓や水晶丘に耳の風  
山 颯り 河 耀 えり 鳥 女  
河女泣く鳥とりに見られなお  
かげろうの顔のつそりと手長鳥  
鳥とりの実る木々より乳根垂る  
時間苔すだく鳥闇わらわらと  
星商人鳥びつしりと実る木々  
うごめくや木は木々めくや星捨場  
鳥木霊せりびんびんとふゆる星

おおどかに火水あがなう星喰い鳥  
あいのかぜ万華橋よりとりとりは  
とりとりの鳥とりここは万華橋  
とりとりの鳥とり万華橋たおれ  
とりとりと星くちうつし火水の木  
とりとりの鳥のとりこの声がする  
鳥絶えて万年空の黄水晶  
男来る橋また橋を虹にして  
常笑い男は虫に愛されて  
星砕くごとく静かに虫砕く  
蕭蕭の明るみ室の一つ虫  
美しい脚が四葩に延びて聲  
蒼穹や虫の十字を地に刻す  
闇に牙ゆ虫に崑崙みえてきし  
塵殖ゆる月光骨の佇立かな  
薄膜の空の果てより男虫  
虹の木にあまた虫ふるユウレシア  
口中の 宮殿 みがく 虹男  
目耳口眉鼻月に虫がいる

虫の笑みまろばす月をひそと舐め  
風紋に蝶ぶつかりて目に穴ぞ  
ぼつくりの虫の影もつほつ雲よ  
草々の蒼々星になる聲を  
轟音をふれあわせたる虫の空  
虫が続ぶ一閃空の眩しくて  
ころがつてゆく海神の翹ひとつ  
雨音を陽にこめ虫は男になる  
万緑の森の奥なる風の獄  
ぐらぐらり光あらぶり風の獄  
風おらぶ森ぐわらぐわらと日の光  
ものいわぬ木々らぐんぐん影おがる  
ぐらゆよんゆんゆんぐらり影おがる  
どおんどおん木々のもだえる影の国  
木の光ぐんぐらり影かけおがる  
風おらぶお前は影だ影の国  
ぐわらがげら光おがりて影おがる  
ゆんぐらり風のまだらの影をふむ  
ぐわらがげら此処よりさきは影の国

ぐんぐよん木々うめき木々ふりみだれ  
ゆんぐらりぐわらぐがげら影おがる  
神木のゆうらり男影おがる  
ぐわらがげら杳なる時の長い舌  
ぐわらがげら光 木 光 影おがる  
ぐんゆらり木の洞にすむ影おがる  
ゆんぐらりお前のうえに影おがる  
ぐんぐゆら影おがるぐらぐりるぐら  
ふりかえる木の舌ばかり ぐわらがげら  
一本の木が倒れある正気かな  
吾の影まだらもだらに影おがる  
葉から葉へ光どよめく影をはく  
万緑の光やつれる影おがる  
吾の影まだらの蛇と吾の影  
影おがる光を食らう影の吾  
うずくまり影のはだえの影光る  
影わらう影に背をむけ影になる  
ふりかえり木の一本を打つ光  
影の国ぬけ万緑の獄をとず